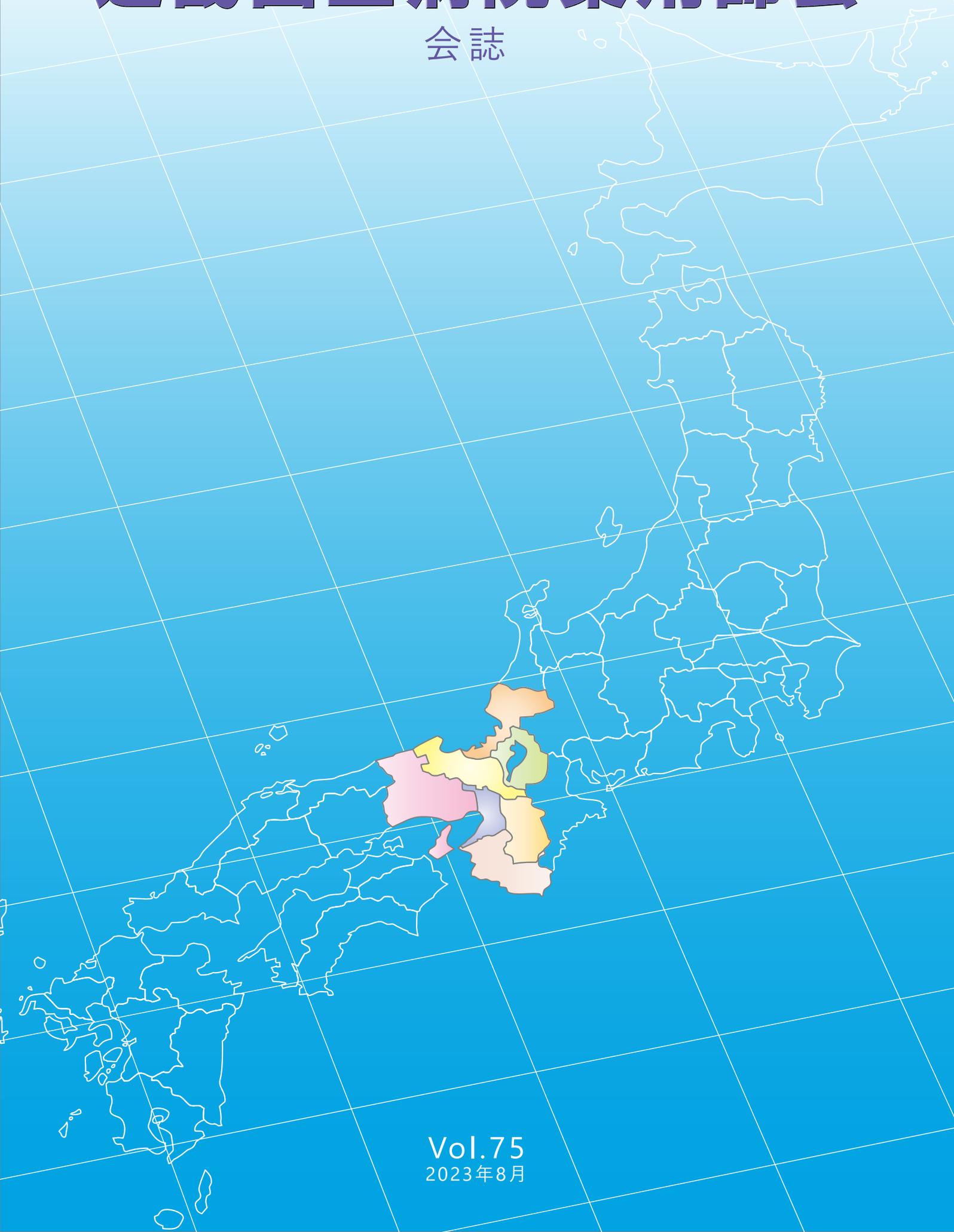


# 近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.75  
2023年8月

## 目 次

提言.....	2
	紫香楽病院 服部 雄司
薬剤科紹介.....	4
	兵庫あおの病院 寺川 伸江
スキルアップ研修会に参加して.....	6
	敦賀医療センター 池田 愛 南京都病院 大倉 あすか
令和5年度NST実習技能研修会に参加して.....	10
	京都医療センター 中島 淳
治験業務に関する認定取得について～治験の認定のあれ、これ～.....	11
	姫路医療センター 松本 信彦
趣味のページ.....	13
	大阪医療センター 祝 洸太郎
編集後記.....	15

## 提言

～たかが挨拶、されど挨拶～

紫香楽病院  
服部 雄司

紫香楽病院に赴任して1年が経過しました。当院は重症心身障害児(者)と神経筋難病を中心とした療養型の施設です。前任地が国立循環器病研究センターでしたので、はじめは落ち着いたペースで仕事ができるかと思っていましたが、そんなことはなく日々忙しく働かせていただいております。このような環境に対応できたもの、採用後から色々な経験をすることができたからと考えています…と、ここまで前回の提言を書いた同期の別府先生の文章をお借りしましたが、以降はちゃんと文章を書いていきたいと思えます。

私自身は今までは急性期病院での勤務ばかりで、関わってきた分野も救急医療、中毒医療、災害医療が中心でしたが、紫香楽病院のような療養型の施設での勤務は初めてで、病院の使命・機能、経営、薬剤部門の責務を考え、急性期病院との違いを楽しみながら薬剤科長業務をしております。今年度からは院長、看護部長、事務部長が代わり、幹部が一丸となり新たな紫香楽病院を作り上げていくことに取り組んでいる状況です。

さて、お題が「提言」ですので、私の薬剤師としての何かの考えなりを皆様に示す必要があるため、「挨拶」について話をしたいと思えます。

皆さんは、日々、病院スタッフ、薬剤部スタッフ、患者さんやそのご家族に挨拶や会話をしているでしょうか？紫香楽病院に赴任して驚いたのが、ここの病院スタッフは「お疲れ様です」、「おはようございます」、誰が相手でも日々の挨拶をし(病院目標に挙げられているわけではなく)、さらに他職種間のスタッフの会話が非常に多いことです。小さい規模の病院だからかもしれませんが、個々のスタッフがコミュニケーションを大切にしているように思えます。

コミュニケーションの第一歩として、「挨拶」はよく言われますが、挨拶は禅宗の問答に由来する「一挨拶(いちあいいつさつ)」が語源とされています。「挨拶」は迫る、互いに近づくこと、「挨拶」は切り込む、押し寄せることの意味があり、禅宗では鋭い問いをもって相手の力量を試みるのが一挨拶とされており、今では「挨拶」として相手と心をふれ合わせる手段となっています。挨拶をすることで、わずかな時間でも相手の声や表情から状況を伺えますし、挨拶をきっかけとした会話でお互いの理解を深める、すなわちコミュニケーションを深めることができます。

前述で紫香楽病院は幹部が変わり、一丸となって新たな紫香楽病院を作り上げていると報告しましたが、院長を筆頭に幹部同士でも挨拶はもちろん、会議以外でも頻繁にお互いの部屋を行き来して、世間話から病院経営の話まで様々な会話をして積極的なコミュニケーションを図っています。そして、紫香楽病院としてもこの「挨拶」する文化を通じて、働きやすい職場環境づくり、チーム医療の深化に繋がるよう、スタッフ間のコミュニケーションが活性化するよう幹部が取り組んでおり、徐々に院内にも良い結果も出てきています。

たかが挨拶、されど挨拶。より良い職場環境、外来・病棟業務の充実、顔の見える他職種連携の活性化…まずは挨拶から。皆さんも意識的に積極的な挨拶を心がけてみてはいかがでしょうか。



## 薬剤科紹介

### 兵庫あおの病院

#### 1. 病院概要

- ・病床数:250 床(うち重心 200 床)
- ・標榜診療科:内科、脳神経内科、呼吸器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、小児外科、リハビリテーション科、放射線科、緩和ケア科、歯科
- ・敷地面積:約 28,000m<sup>2</sup>
- ・病院基本理念
  - 『正しい医療』 科学的根拠に基づいた正しい医療を提供します。
  - 『高度な医療』 高度で先進的な医療を日々研鑽して提供します。
  - 『やさしい医療』 生命と尊厳をまもり、それぞれの患者さまにとって最もやさしい医療を提供します。

当院は、昭和 13 年 6 月に陸軍戦車第 19 連隊付属の疾病収容施設として創設されました。兵庫県北播磨地域南部の小野市と加西市にまたがる青野ヶ原台地に永らく『兵庫青野原病院』として重症心身障害児(者)の療育、呼吸器難病・循環器疾患をはじめとした一般診療機能の充実を図って参りましたが、施設の老朽化のため、北播磨医療圏南部の医療ゾーンの現地に移転新築し、『兵庫あおの病院』と改称しました。機能類型は国立病院機構における『重心専門医療施設』となります。移転新築に際して、地域のニーズに答えるべく重心病床数を 160 床から 200 床に増床し、短期入所はもとより、在宅支援として通所事業を実施、障害児(者)地域療育在宅巡回訪問相談支援事業等包括的重心医療を推進しています。平成 30 年には渡航外来、令和 2 年には歯科外来が開設されました。渡航外来は輸入ワクチンである腸チフスワクチン、ダニ脳炎ワクチンも取り扱っており、近隣の企業の海外出張等に対応しています。

#### 2. 薬剤科概要

薬剤科は、薬剤科長、調剤主任、薬剤師 2 名で構成されています。全ての病棟で薬剤管理指導業務を行い、薬物療法を支援しています。

#### 入退院支援の取り組み

全入院患者(一般病棟、重心病棟、短期入所、レスパイト入院など)の持参薬情報を電子カルテに入力し、医師へ情報提供を行っています。主治医が持参薬の続行を判断した場合には、入力データがそのまま薬歴管理表に反映されるシステムとなっており、医薬品の効率的利用のみならず、医師・看護師の業務負担軽減になっています。退院時には多職種カンファレ

ンスに参加し退院支援を行っています。

### チーム医療への取り組み

End of Life Care チームが発足し、患者さんが最期までその人らしく生きることが出来るように支援する取り組みを多職種で行っています。NST チームでは重心患者さんを対象に栄養管理を行っています。また、今後骨折対策チームが発足する予定です。病院の規模が小さいため、多職種間の垣根が低く連携が取りやすいのが我が兵庫あおの病院の良いところです。

### 薬薬連携の取り組み

近隣の薬剤師会へは薬剤委員会の結果、採用医薬品リストなど随時、広報しています。また、院外処方箋の記載方法変更および疑義照会の事前合意プロトコルを作成し運用しております。

### 学生実習の受入れ

薬剤科では薬学部学生の実務実習の受入れを行っています。



文責:寺川伸江

## スキルアップ研修会に参加して

敦賀医療センター

池田 愛



研修施設ニプロ iMEP で開催されたスキルアップ研修に参加しました。今回のスキルアップ研修の内容は、フィジカルアセスメントであり、中心静脈栄養コース、経腸栄養コース、在宅医療コースに分かれていました。

私は最初に、フィジカルアセスメントに関する研修を行いました。フィジカルアセスメントでは、血圧測定と聴診体験を行いました。血圧測定ではアネロイド式血圧計を用いた聴診法で血圧を測定しました。コトコフ音を聞きましたが、事前の DVD 視聴で予想していた音よりもはっきりと聞き取ることができ驚きました。聴診体験では、Physiko ちゃん(フィジカルアセスメント実習モデル)を用いて、呼吸音を聴診しました。胸部よりも背部の方が呼吸音を聞き取りやすく感じました。しかし、実際の臨床現場では仰臥位のまま診察をしなければならない患者さんもあり、その場合は聴診が困難であると思いました。

次に、中心静脈栄養コースに参加しました。中心静脈栄養コースでは、実際に CV ポートを用いた穿刺体験や使用される物品の構造や投与されるまでの過程を見学しました。シングルルーメンやダブルルーメン、トリプルルーメンの構造を拝見し、普段触れない物品を実際に手にとって観察する貴重な機会となりました。実物を見ると一方は CV カテーテルの先端に、もう一方はカテーテルの途中にスリットを設けることで投与出口が分かれており、体内でも混ざりにくい工夫がされていました。





最後に、交流会に参加しました。コロナで直接会うことの出来なかった同期や他の病院の先生方と Web 上ではなく直接お会いし、情報交換することが出来ました。今後もこのような場を活かし、他の病院の先生方と交流していきたいです。

近年、薬剤師はフィジカルアセスメントを行うことが期待されていますが、実際に行う機会はあまりありません。今回の研修を活かして、チーム医療により貢献していきたいと思います。



## スキルアップ研修会に参加して

南京都病院 大倉 あすか

2023年6月10日に滋賀県草津市の医療研修施設ニプロ iMEP で行われたスキルアップ研修会に参加しましたので報告します。

(内容)

### ① フィジカルアセスメントの DVD 視聴

バイタルサインの 5 指標<sup>1)</sup>の測定方法や評価指標、副作用に対するフィジカルアセスメントのチェックポイントを学びました。

### ② 交流会

交流会では、自己紹介の中で嘘を見つけるゲームや出た目に沿った話題を話すサイコロゲームが行われました。グループの中で優勝した人には豪華景品が送られました。

### ③ 3つのカリキュラム<sup>2)</sup>

今回、私は在宅医療(導尿、吸引)のチームに参加しました。

初めに、訪問看護のロールプレイを見学しました。訪問看護師、患者(寝たきり状態の高齢女性)、患者の娘、の三役に分かれており、娘からの訴え(痰のからみや呼吸苦)を聞いた訪問看護師が患者に聴診や痰の吸入を行う、という内容でした。問題点として、マーゲンチューブが誤嚥により口腔内へ逆流していたことや尿量の減少から脱水の疑いがあることなどが挙げられました。

次に、実際に導尿器具と吸入器具を触りながら各々の特徴について説明を受けました。導尿は持続的導尿と間欠的導尿の大きく 2 つに分けられており、目的や性別、年齢に応じてカテーテルの太さや長さを選択することを学びました。実際に触ったバルーンカテーテルは、シリコーンを素材に使用したりバルーンの柔軟性を高めたり生体にやさしい様々な工夫が行われていました。また、吸入器具にはコネクタに穴が開いている製品があり、吸入圧を指で調節出来ることを学びました。

最後に、フィジカルアセスメントの体験として、アネロイド式血圧計を用いた血圧測定やパルスオキシメータを用いた SpO<sub>2</sub>測定、さらに、呼吸音の聴診を行いました。

---

1) 体温、脈拍、血圧、呼吸数、意識状態

2) フィジカルアセスメント(血圧測定、聴診)+{中心静脈栄養 or 経腸栄養 or 在宅医療(導尿、吸引)}

(全体の感想)

実際に在宅のロールプレイを見学して、患者の様子や訴えから情報を収集し的確に評価することは非常に大切だと改めて感じました。そして、今回の研修で医療器具に対する製作者の気遣いや思いを知り、今後の業務に活かそうと思いました。

また、今回の研修は入社2年目にして初めての対面形式だったため、非常に緊張していました。しかし、交流会では初対面の先生方とも緊張せず楽しくお話することが出来て大変嬉しかったです。また、同期との交流が無いことを気に掛けてくださった先生が声を掛けてくださり、人の温かさを身にしみて感じました。

最後に、ご多忙の中、今回のスキルアップ研修会に向けてご準備いただいた先生方には大変感謝申し上げます。



## 令和5年度 NST 実習技能研修会に参加して

京都医療センター

中島 淳

2023年7月31日(月)から8月7日(月)の平日に開催された令和5年度 NST 実習技能研修会について報告させていただきます。

今回、開催施設は大阪医療センターで、COVID-19 の感染対策を行いながら症例検討やグループワークを行いました。合計22名参加しており、最終的には4グループに分かれて口頭発表を行いました。NHO以外の施設からも6名参加されていました。

研修内容としては、NST から研修会形式で、約1時間の NST に関する集中的な講義、その講義の中でグループによる模擬 NST カンファレンスなどを行いました。最新の栄養ケアの情報やガイドラインを学ぶことができ、同じグループに多職種がいることで毎回のグループワークで様々な知識を得られることは大変貴重で有意義な時間になりました。

主観的な栄養状態の見方、身体測定の方法、栄養剤の種類およびその投与方法や患者に合わせた投与の工夫、必要な検査値の見方、看護ケア時の注意点など特に栄養管理に重要と考えられる項目について毎日講義と症例検討を行い多職種とのコミュニケーション能力の向上にもなりました。その中で、私が気になった症例としては術後に脳梗塞を発症し、その後、摂食不良となり NST 介入となった高齢の患者さんについてです。

嚥下機能を踏まえ食事形態の選定、既往歴や身体症状から PFC バランスの計算、脳梗塞後ということも考え、左右どちらからの介助の方が食事を食べやすいかなど、実務に活かす方法を考え、学ぶことが出来ました。

この研修会に参加したことで、NST の一員としてスキルと知識を磨く機会を得ることができ、非常に有意義で充実した経験を得ることができました。

今後も学びを継続し、患者さんのためのより良い栄養ケアを提供できるよう努力していこうと思いました。

令和5年度 日本臨床栄養学会認定NST研修プログラム (Nutrition week) 案

研修日	研修時間	研修内容	研修場所	研修講師	研修参加者
7月31日	9:00-10:00	開会式 挨拶、研修の意義と目的 研修の進め方について 研修の進め方について 研修の進め方について	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
7月31日	10:00-11:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
7月31日	11:00-12:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月1日	9:00-10:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月1日	10:00-11:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月1日	11:00-12:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月2日	9:00-10:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月2日	10:00-11:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月2日	11:00-12:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月3日	9:00-10:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月3日	10:00-11:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月3日	11:00-12:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月4日	9:00-10:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月4日	10:00-11:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月4日	11:00-12:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月5日	9:00-10:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月5日	10:00-11:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月5日	11:00-12:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月6日	9:00-10:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月6日	10:00-11:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月6日	11:00-12:00	栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性 栄養ケアの重要性	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員
8月7日	9:00-10:00	閉会式 挨拶、研修の振り返り 研修の振り返り 研修の振り返り	大阪医療センター	中島 淳	参加者全員

■ 研修内容  
■ 研修内容  
■ 研修内容

\* 研修・講習の都合により研修内容が変更となる場合があります。  
 \* 研修出席でセンター内研修は研修参加費が別途必要です。

NST 研修プログラム

(大阪医療センターHPより)

## 治験業務に関する認定取得について ～治験の認定のあれ、これ～

姫路医療センター 松本 信彦

今回治験の認定についてお話をさせていただきます、姫路医療センター治験主任の松本信彦です。

薬剤師の認定も学会が多数あることも相まって多種にわたり存在しており、先生方もたくさんの認定を取得されて、その業務に日々邁進されていることと思います。

治験業界においても、あまり知られておりませんが、複数の学会があり、認定制度があります。今回、このような執筆の機会を頂きましたので、お話させていただきます。

私の治験の経験は、治験課題数が少ない時期もありましたが現在で6年を経過したかなあという程度です。(多分・・・)

京都医療センターで1年間CRCを経験させて頂き、その後、薬剤部に戻って薬剤師でした。その後は和歌山病院で薬務主任を命ぜられ、和歌山では薬務主任とCRCを3年、姫路医療センターでは3ヵ月の薬務主任を経て、現在治験主任となっています。急な配置換えでの治験主任業務でしたが、姫路医療センターでの業務がたぶん、順調に行えているのは京都、和歌山での経験と、他の施設の治験担当の先生方のお力をフル活用させて頂いた結果だと思っております。

私が認定取得を目指したのは、治験業務を数年でも行っておりましたので、何かその証を持つておいた方が今後の自分に生かせるのではないかと考え、認定などの取得を試みました。

一番目に行ったのは、受験資格のハードルがそこまで高くないと感じた、日本臨床試験学会が認定しております、『GCP パスポート』という認定でした。

日本臨床試験学会は日本の臨床試験の推進と質の向上を図ることを目的に2009年9月1日に設立された学会です。その学会が治験や臨床研究を行う上で必須であるGCP(Good Clinical Practice)の基本理念、倫理及び臨床試験方法論などの基礎的知識を確認することを目的に実施している試験です。2022年6月の段階では3,467名が認定されており、認定取得者の背景はアカデミアと製薬企業が1:1の割合になっているようです。この認定は、臨床試験や治験に携わって1年間と、セミナーに参加することで受験資格を得られるため、私にとってはハードルが低いと感じ、受験しました(参考 URL: <https://www.j-sctr.org/nintei/index.html>)。

次に、日本臨床薬理学会が認定している、認定CRCの受験を目指しました。この認定は2003年に日本臨床薬理学会が日本臨床薬理学会認定CRC制度を制定し、社会一般の人々がより有効かつ安全な医療技術の恩恵が受けられるように、臨床試験の適正かつ円滑な実施に貢献できる人材を認定することを目的にしている認定資格です(参考 URL :<https://www.jscpt.jp/seido/crc/index.html>)。

受験資格の中に、専任 CRC として 2 年以上の勤務実績と、担当した治験が 5 試験以上、対応した症例として 10 症例が必要であり、治験をある程度実施している施設で治験を担当していないと受験資格が与えられないため、少しハードルが高いように思います。私は京都と和歌山での経験でちょうど、10 試験ありましたので、ぎりぎりながら、受験できることが出来ました。CRC としてのスキルアップを目指すことを目的に取得に至りました。

先程の 2 つの認定は、和歌山病院勤務時に取得しておりました。その後、姫路に異動となり、治験に復帰するタイミングがありました。治験の業界は、ものすごいスピードで新しい方法やコロナ禍によるリモート対応等が取り込まれていましたので、再度、基礎の GCP を勉強し直そうと思い、日本臨床試験学会の GCP エキスパートの取得を目指しました。

この認定は GCP パスポートの上位認定で、臨床試験及び臨床研究の指導的立場で臨床研究が行える人材を認定することとしており、2022 年 6 月現在で、198 名が認定されています。

以上、私が取得した認定についてお話させて頂きましたが、治験の認定は他にも多数存在していますので、一部を紹介させていただきます。

- ・日本臨床試験学会 認定がん臨床研究専門職：  
がん領域の臨床研究を適正に遂行できる人材を育成することにより、がん臨床試験を主とする臨床研究の推進と質の向上を図ることを目的にしています。
- ・日本臨床試験学会モニタリング技能検定：  
モニタリングを適正に行える人材を育成することを目的にしています。
- ・Certified Clinical Research Professional: 米国に本部を置く臨床試験専門職のために活動している Society of Clinical Research Associates という非営利団体の認定です。国際的な認定のため、試験問題は全て英語での回答が必要です。こちらを取得すると国際的な CRC として認定され、国際共同治験で求められる ICH-GCP のトレーニングが免除されます。

治験を行う上で、このような認定が必要という訳ではありませんが、薬剤師と違い、CRC や治験事務局業務は法律的に薬剤師が行わなくてはいけない業務ではありません。

逆にいうと、薬剤師としての資格が必要でない職種であるからこそ、認定を取得することで、自身の力量の把握やステップアップ、治験の業務を行う上での自信に繋がり依頼者と対等にお話出来るのではないのでしょうか。

近年、コロナの治療薬の報道等により、『治験』という言葉をよく耳にするようになり、一般の患者さんにも『治験』の言葉は浸透しております。先生方の施設でも治験薬を調剤する場面も多くあると思いますが、是非とも、治験薬のみを見るのではなく、どのような治験が行われているのかな?? 等と少しでも興味を持っていただけると嬉しく思います。

くすりが世に出るためには、治験は必要なプロセスです。

これからも、治験業務について先生方のご支援を宜しくお願い致します。

## 趣味のページ

大阪医療センター

祝 洸太郎

神戸医療センターの植村先生からバトンを受けて、大阪医療センター4年目の祝が趣味のページを書かせていただきます。植村先生とは入職以降、交流ができていなかったため、食事会を開こうとしましたが流れてしまっているの、改めて企画して、2020年度入職のみんなで国立病院機構近畿グループを盛り上げていきたいと思っています。

今回のページは祝の趣味についてですが、大学生の時から始めたテニスや、美味しいものを食べに行くことです。

テニスに関しては、社会人になってから、更に上手になりたいと思い、近くのテニスクールにも通い始めました。そして、老若男女でのコミュニティが広がり、たくさんの方と交流が増えました。スポーツは良いなと日々感じています。ご興味湧いた先生方、今からテニスを始めませんか？

最近では、ボーナスも入ったこともあり、ラケットを新調してしまいました。このラケットの何がいいのかというと、自身で色などを決めることができ、自分のオリジナルのラケット作れることです。テニスラケットを検討されている方は Willson のカスタムラケットをオススメします。あと、テニスシューズもこの際、買ってしまおうと思い衝動買いをしてしまいました。今後のテニスの練習が楽しみで仕方ありません。



テニスのお誘いなどあれば祝をお誘いいただけると幸いです。

次は食べ物のお題ですが、やっぱりお肉を食べに行くことが多いです。(麺類もよく食べに行きます)

ここ最近は焼き肉、焼き鳥に行くことが多く、海鮮系にも手を出したいと思っていますが、意外と見つけるのが難しく、オススメの場所があれば、教えてください。

少しずつ、コロナ禍も緩和してきたこともあり、やや範囲を広げて行きたいと思っていましたが、最近はまだ、雲行きが怪しく、行きたいところをリストアップしていただくの毎日となりました。

早く、コロナが落ちついてほしいものです。



次回の趣味のページですが、独断と偏見で前回のニプロの研修で同じ班であった舞鶴医療センターの多田先生にお願いしたいと思います。今後の研修などでも会う機会が増えると思うので、今後も他施設の先生方と交流を深めていきたいと思っています。

